



《新・尼崎の本棚 93》

まめだ

豆狸 (金衆寺)

尼崎市水堂町2丁目にある金衆寺にタヌキに関するお話があります。大正の初めの頃、金衆寺の周囲は杉木立に覆われていました。お寺の西側はさかさ川という川があり、この地域は江戸時代まで大雨により武庫川の堤防が崩れると、大量に土砂が流れ込み、沼地になっていました。さかさ川には真菰(まこも)が生い茂って、うっそうとしており昼間でも淋しげな荒地でした。村人がこの小路を歩いていると、吹いている風がピタッと止まり、頭上から砂が降ってきて、「ササラーササラー」と真菰が音を立てることがありました。これは寺の豆狸の仕業で、村人はいたずらに驚きますが、この悪さを楽しんでいたということです。

「豆狸」は西日本に伝わる狸の妖怪として伝承されており、江戸時代の奇談集「絵本百物語」にも記述があります。他にも兵庫県の灘や山陽地方に豆狸の伝承があり、主にいたずら好きの妖怪として伝わっています。日本の昔話は「分福茶釜」など寺とタヌキが出てくることが多くあります。昔、寺の床下はタヌキのねぐらになっていることが多かったようです。寺は墓にお供え物などの食べ物があり、和尚さんが殺生を嫌うのでタヌキにとって住環境が整いやすく、よく目撃されたのでしょう。

(参考:「戌井の伝承1~5」立花公民館水堂分館/編集発行)

◆ 狸寝入り

タヌキは犬の仲間で一夫一婦で子育てをします。春に出産し10月~11月には子どもたちが親から独立し分散します。そのため秋に目撃情報も多くなります。タヌキにはため糞という行動範囲内に10ヶ所ほど繰り返し糞をする習性があり、これは他のタヌキも共同で糞をします。タヌキは糞の臭いをかぎ分けられるためバラバラに暮らしていても共同トイレを通じ、互いの存在を確かめ合っていると考えられています。

タヌキにまつわる言葉として、眠っているふりをする「狸寝入り」という言葉がありますが、タヌキは本当に驚いたとき仮死状態になると言われています。例えば、猟師が鉄砲で撃ち、タヌキは気絶します。銃が当たったと思っている猟師はタヌキを背負子に入れて山を下りますが、タヌキは意識を取り戻し慌てて逃げだします。猟師は家に帰って背負子を見ると空っぽで、タヌキに化かされたと感じます。このことから狸寝入りという言葉ができたと言われています。

(参考:『タヌキは本当に狸寝入りするか』雄鶏社/編集発行)

● 「タヌキ」についてならこんな本●

『タヌキ』大高成元/著 汐文社 220497079

『ほ乳類は野生動物のスーパースター3』熊谷さとし/著 少年写真新聞社 221662605

『子どもの喜ぶ狸話・狐話・ふしぎ話』名取三喜/著 黎明書房 221646234

<図書館の休館日> 印の日はお休みです

11月

12月

日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	③	4	5	6				1	2	3	4
⑦	8	9	10	11	12	13	⑤	6	7	8	9	10	11
⑭	15	16	17	18	19	20	⑫	13	14	15	16	17	18
⑳	21	22	㉓	24	25	27	⑲	20	21	22	23	24	25
㉘	29	30					㉙	27	28	29	30	31	



11月:霜月(しもつき)

食べ物:カボチャ、シュンギク、ナメコ、ナシ、キウイ、イワシ、カンパチ
 植物:パンジー、コスモス、ケイトウ、アザミ、フウセンカズラ、ハンノキ
 季語:小春、時雨、九州場所、年貢納、山茶花、冬紅葉、银杏落葉

開館時間 午前9時~午後8時(日曜・休日(○)は、午後5時15分まで)

特別整理期間について

11月29日(月)から12月3日(金)まで、蔵書点検のため休館します。
また、11月16日(火)から11月28日(日)まで、貸出期間を3週間に延長します。

ご不便をお掛けしますが、ご協力をお願いいたします。

ピッコロ劇団コラボ企画 「グリム童話とおはなしの森」

【期間】10月29日(金)～11月24日(水)

- ☆ 本を借りてスタンプをためよう!
カウンターでスタンプカードをもらって本を借りると、1冊ごとにスタンプを1つ押しもらえるよ。
全てたまったら、小さなプレゼントがもらえます!
- ☆ ハンゼルとグレーテルがおとした目印をたどって、クイズを解こう!
お菓子の目印の先に、クイズがあるよ。児童室にかくされた6つのクイズに正解すると、スタンプカードに2つスタンプがもらえます!
- ☆ みんなでお菓子の家を完成させよう!
本を借りた人に、お菓子の絵のピースをわたすので、ギャラリーにはってね。
大きなお菓子の家を完成させよう!



大きい大きい紙芝居大会

【日時】11月13日(土)14時30～15時30分まで

【場所】北図書館 3階集会室

【定員】先着50名

【申込】不要

ボランティアグループ「ひまわりの会」のみなさんによるおはなし会です。
手作りの大きな紙芝居をめくりながら、お話がどんどん進みます。
小さな子から楽しめます。当日は直接会場にお越しください。



<11月展示のご案内>

一般大展示 「おすすめ本ポップ」

2階展示 「きものあれこれ」

- ・ 急遽イベントを中止、または延期する場合があります。
- ・ ご来館の際は感染症対策へのご協力をお願い致します。

大人のための朗読会

【日時】 11月17日(水) 午後2時から1時間ほど
【場所】 3階 集会室
【内容】 『少年と犬』 馳 星周/著

朗読はボランティア「ま・どんな」のみなさんです。

※ 状況により、内容の変更・中止になる可能性があります。

人を読む 坂東真砂子

1958～2014年。高知県生まれ。奈良女子大学卒業後、イタリアに留学。『桜雨』で島清恋愛文学賞、『山姥』で直木賞、『曼荼羅道』で柴田錬三郎賞を受賞。著書に『死国』『蛇鏡』『狗神』『旅涯ての地』など多数。

『屍の聲』

坂東 真砂子[著]/集英社

惚けてしまった祖母は、可愛がっていた孫娘・布由子の事も分からなくなる。ある日、川に転落した祖母を布由子は助けようとするが...。表題作ほか、「猿祈願」「残り火」「盛夏の毒」など、風景が畏れの記憶を呼び起こす、全6編を収めた恐怖小説集。

『ミラノの風とシニョリーナ』

坂東 真砂子[著]/中央公論社

“イタリア人の心は、いつも風のように気まままで自由だ” インテリアデザイナー志望の著者が単身日本を飛び出し、イタリアに留学する。言葉や住まい探しに苦戦しながら、イタリアの陽気な人たちに出会って暮らすうちに、人生の楽しみ方を学んでいく。20代半ばの若かりし頃の著者が描いた青春留学記。

『身辺怪記』

坂東 真砂子[著]/朝日新聞社

怖い話を書こうと取材に入ると、ワープロが壊れる。担当編集者が体調を崩す等、身辺に不気味なことが起こり始める「身辺怪記」。タヒチ、バリ島など優雅な南洋紀行「南方浄土」。ふるさと土佐への郷愁を綴った「昔日残夢」や「日常雑録」の4つの章立てで、著者のすべてが詰まったエッセイ集。

『はじまりの卵の物語』

坂東 真砂子[著]/理論社

偶然拾った白く丸い石に導かれ、結花は“羽根族”や“草人”のいるパラレル・ワールドへ来てしまう。そこを支配する猫目族の男は、結花の世界までも支配しようと目論む。「はじまりの卵」を巡って、世界を救うための冒険が始まる。

【小学5～6年生】

大学卒業後、イタリアに2年間留学し、ミラノ工科大学などでインテリアデザインを学ぶ。帰国後、児童文学『ミラノの風とシニョリーナ』（あかね書房）でデビュー。後に一般小説に転向、長編怪奇小説『死国』で注目を集める。ジャンクロード・ミッシェルとの共同執筆による筆名に梶森 南溟（はくもり なんめい）がある。2014年1月死去。

児 童 室 11 月



土曜日 おはなし会

おひざのうえ (0~2歳くらい) 午後2:00~
 小さい人 (3~5歳くらい) 午後2:15~

(第2・第3土曜日) 場所: 3階集会室

11/13 (土)

● おひざのうえ
 「ケーキになあれ!」
 「ばいばいまたね」



11/20 (土)

● おひざのうえ
 「じゃあじゃあびりびり」
 「もうねんね」

● 小さい人
 「くんちゃんのだいいりよう」
 「だごだごころころ」

この日は「大きい大きい
 紙芝居大会」もあります!
 2:30~3:30

手の消毒、
 マスク、検温に、
 ご協力よろしく
 おねがいします!



水曜日 あかちゃんひろば

(第1・第3水曜日)
 場所: 1階絵本コーナー

11/3 (水)、11/17(水)
 午前11:00~11:20

0歳~2歳くらいのお子さんと
 保護者向け

赤ちゃん絵本、わらべうた、手遊びなど



日曜日

(第2・第4日曜日)
 場所: 1階ロビー

11/14(日)、11/28(日)
 午前11:00~11:20

2歳くらいから

季節の絵本や紙芝居など

11

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3 	4	5	6
7 	8	9	10 	11	12	13
14 	15	16	17 	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28 	29	30				

今月の展示

『あきのほん』

